

26 檀原市昆虫館

—きっと昆虫と友達になれます—

裕美さん、「スズムシが元気に育っています」というお手紙ありがとうございます。「虫だより」のお礼に檀原市昆虫館に行ってきたときのお話をします。

檀原市昆虫館があるのは大和三山の1つ、天香久山(あまのかぐやま)のふもと、豊かな自然にまつまられた所です。大きなカブトムシの模型とトンボの日時計に迎えられると館内に入ると、そこは昆虫の世界です。



昆虫は今から3億年前に現れました。私たち人間の祖先が現れたのは200万年前ということですから、昆虫は人間の歴史の150倍もの歴史をもつ大先輩(せんぱい)、知られているものだけでも100万種以上、全部で3000万種以上いるという推定もあります。



こんな昆虫のことが分かりやすく展示されています。標本もいっぱいです。輝くような美しいチョウ、大きなチョウなど、昆虫の標本は5000種にもなるそうです。

そんな中で驚かされたのがオオキノハタテハでした。枯れ葉そっくりなのです。褐色で、おじさんは「葉っぱで作るとこうなりますよ」という展示だと思いました。ほかにも他の鳥などがこわがるフクロウ

に見える形をしたエウリロクスフクロウチョウなど、自分の身を守る工夫に驚きました。

ほかにもお話したいことはいっぱいですが次にして、チョウが放たれている温室のことをお話しましょう。入り口には今月初めのチョウの数が667匹と書かれていました。こんなにたくさんのチョウが飛び回っているのです。

この写真はオオゴマダラです。黒白のマダラ模様から付けられた名前です。羽根に書かれた数字は羽化した日付です。ほかにも、シロオビアゲハ、ツマムラサキマダラ、リュウキュウアサギマダラなどがゆったりと飛んでいました。いつでもチョウがいる状態にしておくために、さなぎ



で冬眠させておき必要なときに羽化させるそうです。また、幼虫は限られた植物しか食べないので、幼虫が増えすぎてその植物(食草といいます)が無くならないように食草と幼虫の数を調整し、えさにする植物だから殺虫剤を使わず、人間の手で害虫を駆除するなどの仕事が大変なのだそうです。

そんなご苦勞のおかげで昆虫と仲良くなれる施設、「自然観察会」「むしムシゼミナール」が開かれるのが昆虫館です。きっと、昆虫大好きな裕美さんが来るのを待っていますよ。

ではまた、さようなら

(やまと・平成20年8月号所載)

スポットの案内

橿原市昆虫館は橿原市南山町 624 にあって、近鉄八木駅からコミュニティバスが運行されています。電話は 0744-24-7246 です。

開館時間は 9:30～17:00(入館は 16:30 まで)、10 月～3 月は閉館が 30 分早くなります。休館日は毎週月曜日(祝日の場合翌日)ですが、夏休み中の月曜日は開かれます。中学生以下の入館料は 100 円です。

理科のワンポイント「昆虫の世界」

地球上に住んでいる動物のうち昆虫は 80%以上を占めているといわれています。そして、地表を歩くもの、飛ぶもの、泳ぐものなど生活の様子も様々で、それぞれの生活に適応した体をもっています。中には、ハチやアリのように住み家を作り、共同生活をするものもいます。そんなことから哺乳類とともに最も進化し、繁栄している動物だと言われます。

昆虫が私たちと大きく違っているのは骨を持たないことです。人間をはじめ多くの動物は体の中に背骨や手足の骨を持ち、これと筋肉によって体を支えています。内骨格といわれる体の仕組みです。

これに対して昆虫は皮膚が固くなっていて、これが体を支えるはたらきをしているのです。カニやエビなどもそうですね。こうした体のつくりを外骨格と言います。また、体や足は多くの節に分かれています。このことは、エビやカニも同じですね。こうした動物をまとめて節足動物といいます。

昆虫の場合は体が頭部、胸部、腹部の 3 つに分かれています。そして、胸部には 3 対の足があり、多くの場合 2 対の羽根を持っています。クモも節足動物ですが、頭胸部と腹部の 2 つに分かれているだけです。

から、昆虫の仲間とは別のグループとされています。

ずーっと前に、中学生にアリやトンボの絵をかかせたことがあります。右の図はそのときのもので、「羽と足の両方がよく分かるように描きなさい」という指示に従って表現を工夫しています。

しかし、「身近な生物なのにしっかりと見ていないなあ」と思われる図もあります。観察しようと思ったらいつでもできる昆虫です。ぜひともしっかりと見つめてください。「ああ、こうなっているんだ」そんな発見があると思います。

